

変動地形学から見た活断層と原発問題

渡辺満久講演会

変動地形学から見た防災と耐震安全性

東洋大学社会学部教授 (活断層研究、地形学)

2012年9月9日(日) 13:00開場 13:30~15:30

【会場】 子規記念博物館 4階講堂

松山市道後公園 1-30 (Tel 089-931-5566)

講演

「変動地形学から見た活断層と原発問題」

渡辺満久さんは、大飯原発の直下に活断層が存在する疑いを指摘しました。7月12日には、市民からの調査要請や超党派の国会議員108名による調査要求が相次ぎ、やっと大飯原発の断層の調査が決定しました。

伊方原発運転差止訴訟では、四国電力の答弁書に「敷地の地盤には問題となるような断層及び大規模な破碎帯はない」判断をしたとあります。しかし客観性があると言えるのでしょうか。大飯と同じような問題を含んでいる可能性はないのでしょうか。

私たちはまず、渡辺満久さんを招いて、「変動地形学から見た活断層と原発問題」を初歩から学ぶことにしました。ぜひともご参加ください。

15:40~16:50 第2回定期総会

伊方原発をとめる会

790-0003 愛媛県松山市三番町5-2-3ハヤシビル3F
電話 089-948-9990 FAX 089-948-9991
HP <http://www.ikata-tomeru.jp>

今次講演会の評価を含め「伊方原発をとめる会」の定期総会を行いますので、会員の皆様はお残りください。



福井新聞 ONLINE に掲載された渡辺氏の写真から

教授(変動地形学)が2012年7月12日に演じた。同原発周辺の破断層が原子炉直下に活断層が5被害が避けられない。建屋や移転の決断をすべき

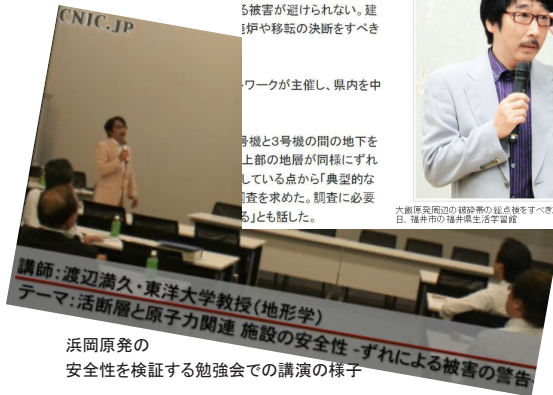
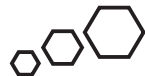
ワークが主催し、県内を中

身機と3号機の間の地下を上部の地層が同様にずれしている点から「典型的な調査を求めた。調査に必要な」とも話した。



大飯原発周辺の断層帯の疑点を探る渡辺満久教授(2012年7月12日、福井市の福井県生活学館)

資料代500円



浜岡原発の安全性を検証する勉強会での講演の様子

【講師紹介】 渡辺満久 わたなべみつひさ

東洋大学社会学部教授。新潟県生まれ。東京大学理学系研究科地理学専攻博士課程修了。理学博士。専門は地形学(変動地形学)。「新編 日本の活断層」(東大出版会)、「九州の活構造」(東大出版会)、「都市圏活断層図」(国土地理院)、「活断層地形判読—空中写真による活断層の認定」(古今書院)などを共同執筆。国内外で活断層調査を実施。原発のある地盤の活断層分析で注目されている。